

子どもたちのために この場所を大切に 守っていききたい

梶原真砂子
館長

福島県富岡町 こおりやま児童クラブ

今も思い出すのをためらってしまふ反面、現実として受けとめられない東日本大震災の日の出来事。富岡町には児童館が三施設あり、それぞれに児童クラブがあります。私は二〇一三年四月から児童館勤務となりましたが、当時の先生から、現在の児童クラブができるまでの話を聞き、ここで紹介します。

◆中央児童館内の中央子どもクラブは、富岡町の中央にある小学校から二〇分かけて歩いたところにあります。二〇一三年三月一日は五名ほどが登館し、自主勉強をしていました。一四時四五分過ぎに地震発生。揺れがだんだん激しくなり、すぐに子どもたちを外へ避難させました。下校途中の子どもは職員が迎えに行き、児童館で保護者の迎えを待ちました。雪がちらつき、寒さのなか、ブルブルしとにくるまり泣きじゃくる子どもたち。職員は声をかけてはげまし、地震がおき

て、そこにいた兄弟と一緒に一夜を過ごし、翌日の朝、やっと父親に渡すことができました。

◆上岡児童館内の上岡子どもクラブでは、職員が「緑日風祭りの準備をしていました。町の山手にある上手岡子どもクラブには、小学校からバスに乗って登館してきます。地震発生時、子どもたちはバス停にいましたが、すぐに小学校に避難し、全員無事でした。施設がレハブの古い建物のため、壊れ方がひどかったようです。職員は、道路の状況が悪くなか、小学校へ向かい、子どもたちの安全を確認しました。

震災翌日には、富岡町は全町避難となり町を後にしました。バスや自家用車で避難先の川内村に行きましたが、受け入れられる人数に限度があり、三春町・田村市・船引町・会津市・福島市・飯坂町などに避難させられました。

まるのを祈りながら待ちました。夕方には、全員を無事に保護者のもとに返すことができました。その後、登館してこなかった子どもの安全も確認し、全員無事であることを知ってほっとしました。

◆夜ノ森児童館内の夜ノ森子どもクラブには、一年生二〇名以上がすでに登館し、宿題をしたり室内で遊んだりしていました。地震が発生してすぐに子どもたちを集会広間に集め、机の下に避難させましたが、揺れがひどくなり、天井の換気扇が落下したり壁がはがれたり、体育室のガラスが激しく割れる音が響き、外へと避難しました。

泣きたす子や寒さに震える子をラブリシートでくるんで保護者の迎えを待ち、夕方には迎えが来て、残りは女児一名に。不安で泣きたす女児を必ず迎えに来るから大丈夫」とはげまし、避難場所になっていた小学校へ移動し

県外に避難した人もいたようです。後に、川内村も避難区域となり、郡山市内の各施設や複合ベンション施設「ビッグパレット」へ移動しました。そこにも入れない町民は、さらに埼玉県の杉戸町に避難させられました。富岡町役場と川内村役場は「ビッグパレット」に拠点を置いて、避難者の対応をしてきました。

校生活でストレスをかかえている「遊び場がない」と、保護者から児童館を立ち上げてほしいとの声が強くなり、二〇一二年七月には開設に向けて準備がはじまり、仮設住宅の集会所を利用して、富岡こおりやま児童クラブが開設されました。しかし、仮設住宅の行事があるときには部屋の半分しか使えず、子どもたちに我慢させることが多かったようです。二〇一三年一月からは、仮設内の診療所跡を利用することができるようになり、現在は、気兼ねなく遊んだり勉強したりすることができています。

「子どもは、不安を抱えて不自由な暮らしを強いられている子どもたち。喜ぶことができると、職員は、コーナークラウドができました。しかし、一か月が過ぎ、避難所近くや各地区に応急仮設住宅ができるようになると、避難所から出て行く人が多くなり、ボランティアの支援やキッズコーナークラウドが足りなくなるとしてしまいました。

そんなとき、「働きたいのに子どもを預けるところがない」「慣れない学

守っていききたいと思っています。

の場所を子どもたちのために、大切にしたい。不自由はあるもの、こ